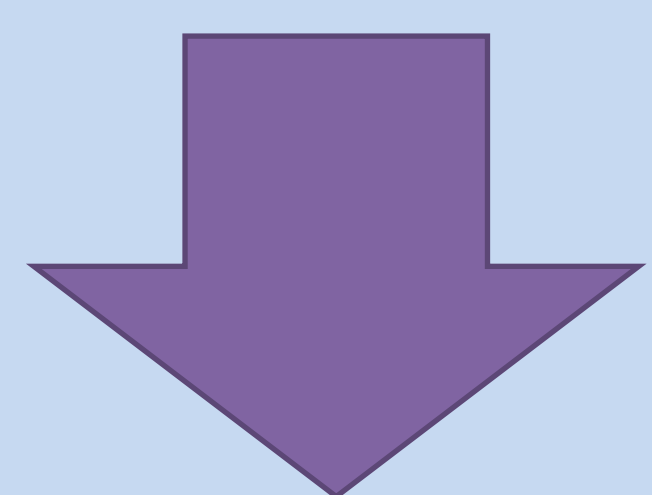


動画教材を用いていかにして学習意欲を高めるか —ARCS モデルにもとづく動画教材の開発—

近年における動画教材の重要性

- ①新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的流行により、対面学習を避けてのeラーニングの需要が激増。
 - ②GIGAスクール構想の影響で、教育におけるICT技術の導入、活用が盛んになる。
- プリント教材をオンラインで活用するだけでなく、動画教材の活用も注目度アップ。



しかし、そういった動画教材を、**どう作れば学習意欲を高められるか**について、研究や実践が極めて少ない。

ARCSモデルとは？

アメリカの教育学者ジョン・M・ケラーが1980年代に提唱した学習意欲の向上に関する理論モデルで、以下の4つの観点から、学習意欲を高める効果のある教育方法や教材設計を考えるというもの。

- A**(Attention / 注意)
- R**(Relevance / 関連性)
- C**(Confidence / 自信)
- S**(Satisfaction / 満足感)

より小さい分類には、知覚的喚起(面白そうと思わせる)や、変化性(マンネリを避ける)等の項目がある。

「どう作れば学習意欲を高められるか」の課題に対応するために、今回はこの4つのうち、最初の「A」に注目！

動画の設計・開発と授業等における実践

① 学習動画の基本的な構造：Google Classroom・YouTubeの機能も活用

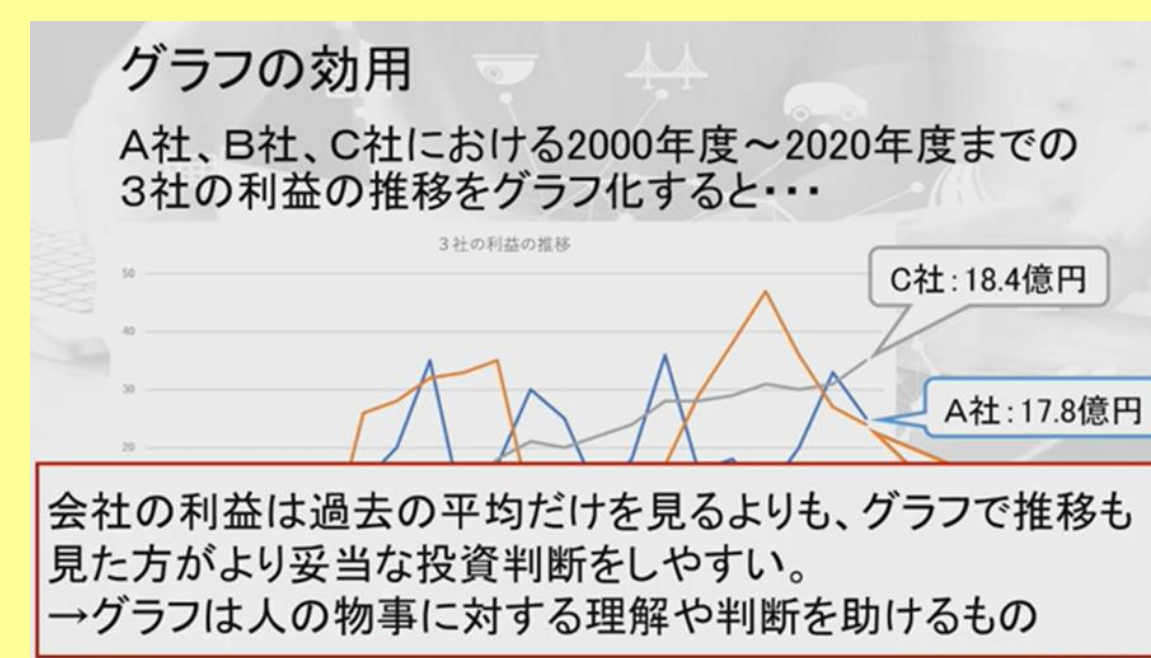
- (1) タイトルやサムネイルを工夫し、視聴する生徒が動画で何を学ぶのかについてわかりやすくしたり、興味や関心を持ちやすくするようにした。
- (2) 動画の中では適宜BGMを使い、また、動画内のテロップや図表をカラフルに使用し、生徒が視聴しやすいものにした。
- (3) 自分の見たい部分を飛び飛びで視聴できるように、YouTubeにおいてタイムスタンプを各学習内容ごとに設置した。
- (4) 画像1つあたりの時間は基本的に20分以内、動画内の文字のサイズは20～30にし、短時間で繰り返し視聴・学習ができ、かつスマートフォン等の携帯端末でも視聴しやすい仕組みにした。



サムネイルを用いた一覧表



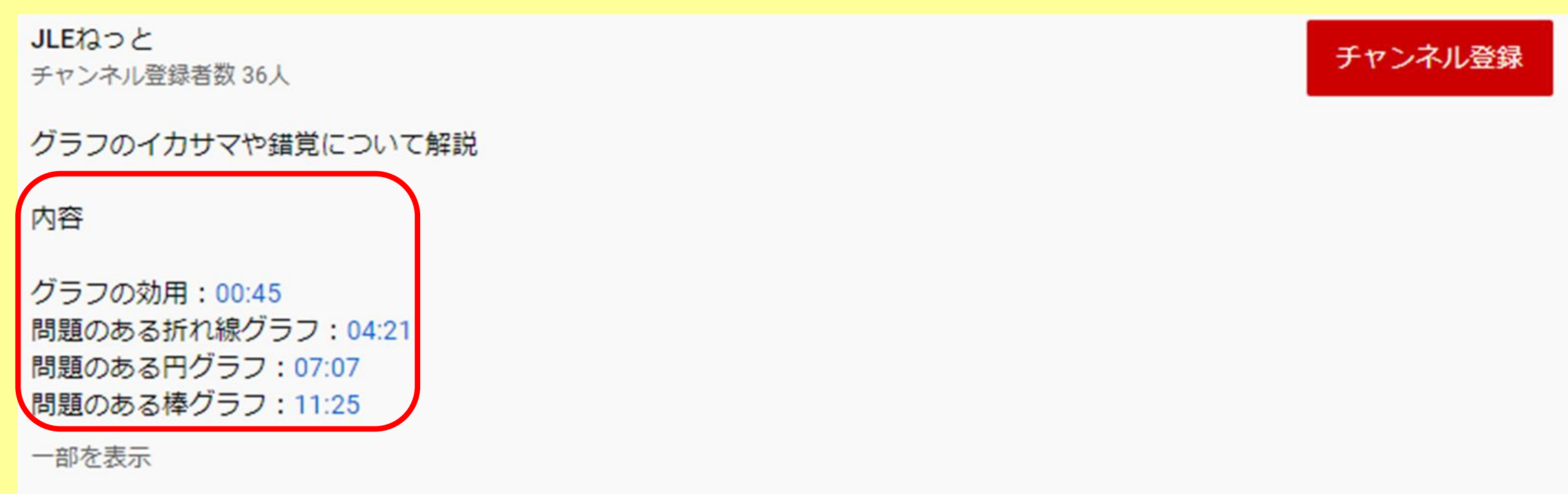
タイトル画面



図や色・テロップを工夫

② 授業等における実践：今年度担当した国語科・情報科での活用

- (1) 授業で学習した内容の復習教材としての活用
→当該単元が終わっても、その単元について効率よく学び直したり、欠課時のキャッチアップをしたりするために各自が自由に視聴できるようにした。なお、視聴は各自の任意とした。
- (2) 授業時間内でカバーしきれない内容も扱う教材として活用
→定期試験用の学習プリントの補助や、大学入試の教材の解説等にも使用し、多くの生徒の学習需要に対応可能にした。



YouTubeの概要欄にタイムスタンプを設置し、自分が学習したい内容にのみ絞って視聴することができるように動画の内容を工夫

実践を終えての結果・考察

- ①生徒達からのアンケートでは、動画の視聴はおおよそ半数の生徒が「した」と回答し、そのうちの60%の生徒が動画視聴によって学習意欲が「高まった」「まあまあ高まった」と肯定的に回答した
→高まったと感じる理由としては、「勉強を始めるハードルが低くなる」「図をたくさん使っている」「気軽に見れる」「授業のイメージが浮かんで興味がわいた」「授業の要点がまとまっていた」等の回答があった。
- ②定期試験の結果、視聴した生徒の成績と、視聴しなかった生徒の成績を比較すると、前者が大きく後者を上回っていた。

➡ 以上から、ARCSモデルにおける「A」の観点に基づく動画教材の作成が、学習者の学習意欲を高めるのに有効であることが示唆された。

備考：拙著『動画教材を用いていかにして学習意欲を高めるか—ARCSモデルにもとづく動画教材の開発—』（日本教育工学会研究報告集21(4), 259-264, 2021-12-3）もあわせて参照のこと。また、この研究はJSPS科研費21H04018の助成を受けたものである。